2019年度
第2四半期決算説明会

2019年11月28日

あすか製薬株式会社

証券コード：４５１４

2019年度上期
連結決算概要

あすか製薬株式会社
代表取締役専務取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書（連結）

単位：百万円	2018年度 上期	2019年度 上期	増減額	増減率
売上高	23,477	26,582	3,105	13.2%
売上原価	14,030	14,492	462	3.3%
売上総利益	9,446	12,089	2,643	28.0%
販売費及び一般管理費	8,486	11,343	2,857	33.7%
営業利益	960	746	△ 213	△22.3%
経常利益	1,078	869	△ 208	△19.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	743	577	△ 166	△22.4%

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2018年度 上期	2019年度 上期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	20,906	24,177	90.9%	3,270	15.6%
動物用医薬品	2,462	2,319	8.7%	△ 143	△ 5.8%
その他	108	86	0.4%	△ 21	△20.1%
合計	23,477	26,582	100.0%	3,105	13.2%

主要製品売上高

単位：百万円

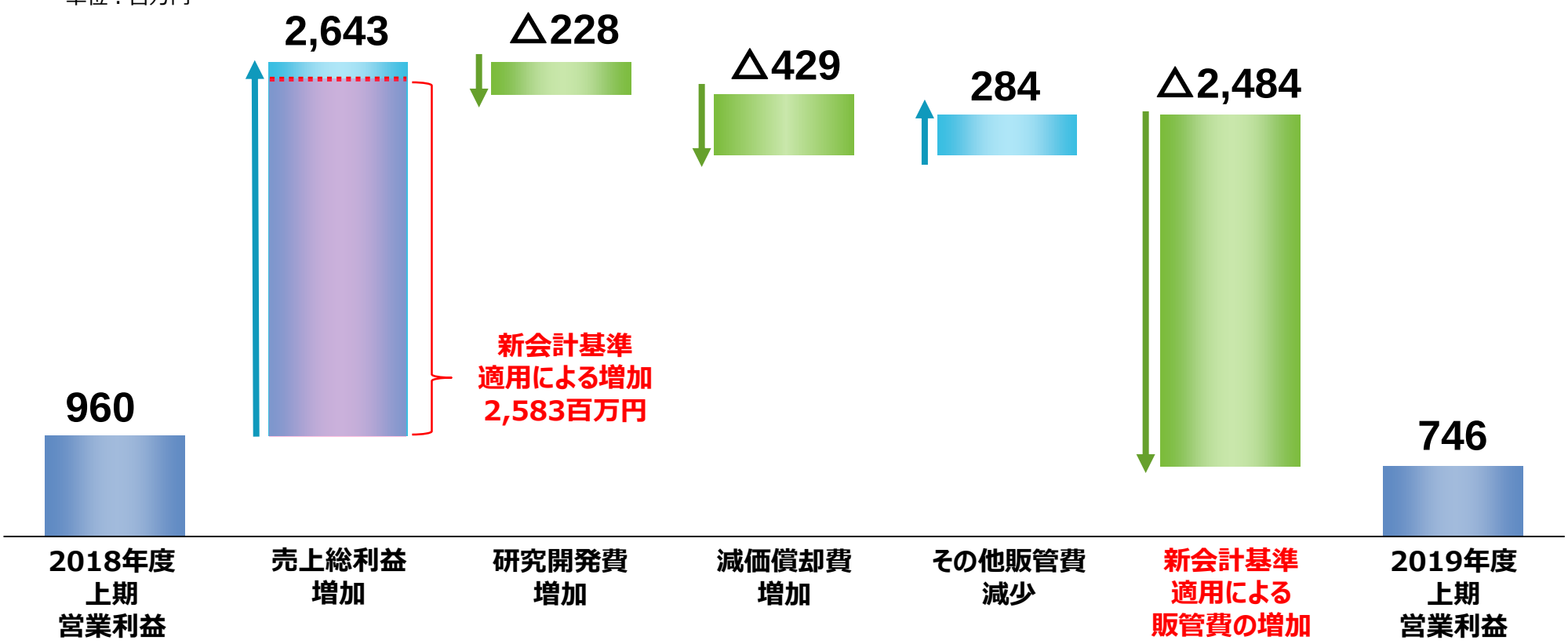
領域	製品		2018年度 上期	2019年度 上期		2019年度	
			実績	実績	前同比（%）	計画	前同比（%）
内科	※1、※2	カンデサルタン類	6,077	6,878	113.2%	13,600	116.0%
		チラーヂン	3,010	3,433	114.0%	6,982	126.4%
		リフキシマ	1,178	1,845	156.6%	3,893	132.6%
	※1	アムロジピン	703	790	112.3%	1,525	111.1%
		リピディル	1,117	777	69.5%	1,208	35.6%
		メルカゾール	599	700	116.8%	1,338	116.2%
産婦人科	※1	フリウェル（2018.12~）	–	1,012	–	2,010	285.4%
		レルミナ（2019.3~）	–	865	–	1,981	–
		アンジュ	419	538	128.4%	1,000	111.7%
		ルテウム	196	246	125.2%	483	116.6%
		ノルレボ	658	121	18.4%	664	52.8%
泌尿器科	※1、※3	リュープロレリン	2,076	2,472	119.1%	4,524	99.7%
	※1	ビカルタミド	622	692	111.3%	1,058	90.3%
		プロスタール	222	208	93.7%	395	87.9%

※1 ジェネリック医薬品
※2 配合剤を含む
※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mgと合算

2019年度から「収益認識に関する会計基準」を適用

営業利益増減分析（対前同）

単位：百万円



要因分析

- 売上総利益は増加したものの、販売権の償却開始による減価償却費の増加や開発ステージの進展による研究開発費の増加等から、営業利益は減少

貸借対照表（連結）

2018年度末

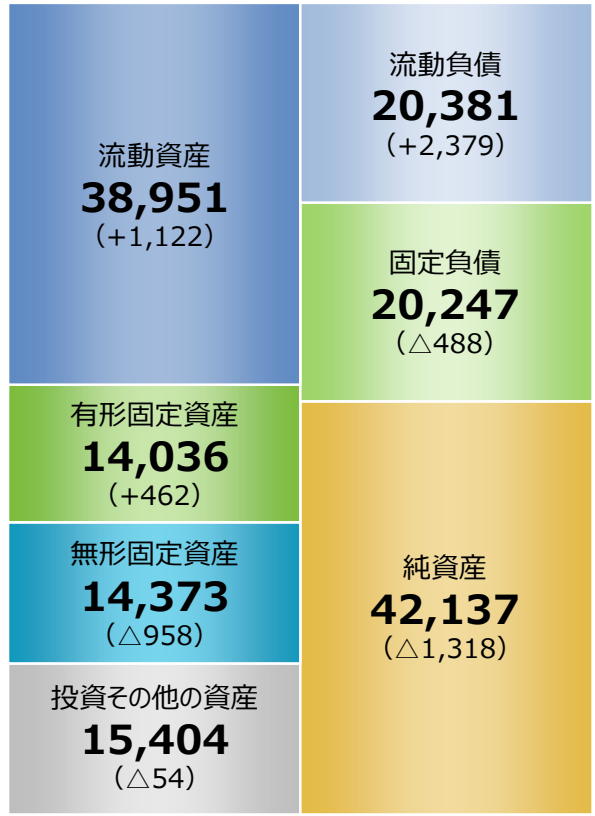
単位：百万円



総資産　82,194百万円

2019年度 上期末

単位：百万円



総資産　82,766百万円
(+572)

■ **資産の部**

現金及び預金　△3,690
受取手形及び売掛金　4,112
棚卸資産　963
有形固定資産　462
無形固定資産　△958
その他　△316

■ **負債･純資産の部**

支払手形及び買掛金　△1,399
借入金　3,425
利益剰余金　△942
その他　△511

2019年度予想（連結）

単位：百万円

	2018年度 実績	2019年度 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	46,706	53,000	6,294	13.5
営業利益	1,782	2,000	218	12.2
経常利益	1,980	2,100	120	6.1
親会社株主に帰属する当期純利益	1,744	1,000	△744	△42.7

要因

- 売上高は、「収益認識に関する会計基準」の適用の影響および、「レルミナ」をはじめとする産婦人科領域の新製品群や「リフキシマ」の売上拡大により、増収となる見込み。
- 利益面は、売上高の増加に伴い営業利益、経常利益は増益となる見込み。一方、親会社株主に帰属する当期純利益については、研究所の移転に伴う特別損失の発生を見込んでいることから、減益となる見込み。

2019年度上期総括
年度中間報告

あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

本日の内容

- 2019年度上期総括
- 2019年度下期の取り組み
  - 産婦人科
  - リフキシマ
  - 甲状腺
  - 湘南アイパーク
  - 海外事業
  - 開発パイプライン
  - 共同研究開発
  - ASKA PLAN 2020

2019年度上期総括

2019年上期の主な成果

■産婦人科領域新製品の市場浸透



2018年10月4日　ノーベルファーマ株式会社より発売
月経困難症治療剤
『ジェミーナ®配合錠』　コ・プロモーション



2018年12月14日発売
月経困難症治療剤
『フリウェル®配合錠LD・ULD「あすか」』　オーソライズド・ジェネリック



2019年3月1日発売
GnRHアンタゴニスト
『レルミナ®錠40mg』　武田薬品工業株式会社より導入

■ リフキシマのシェア拡大

■ 甲状腺疾患の継続的な啓発活動

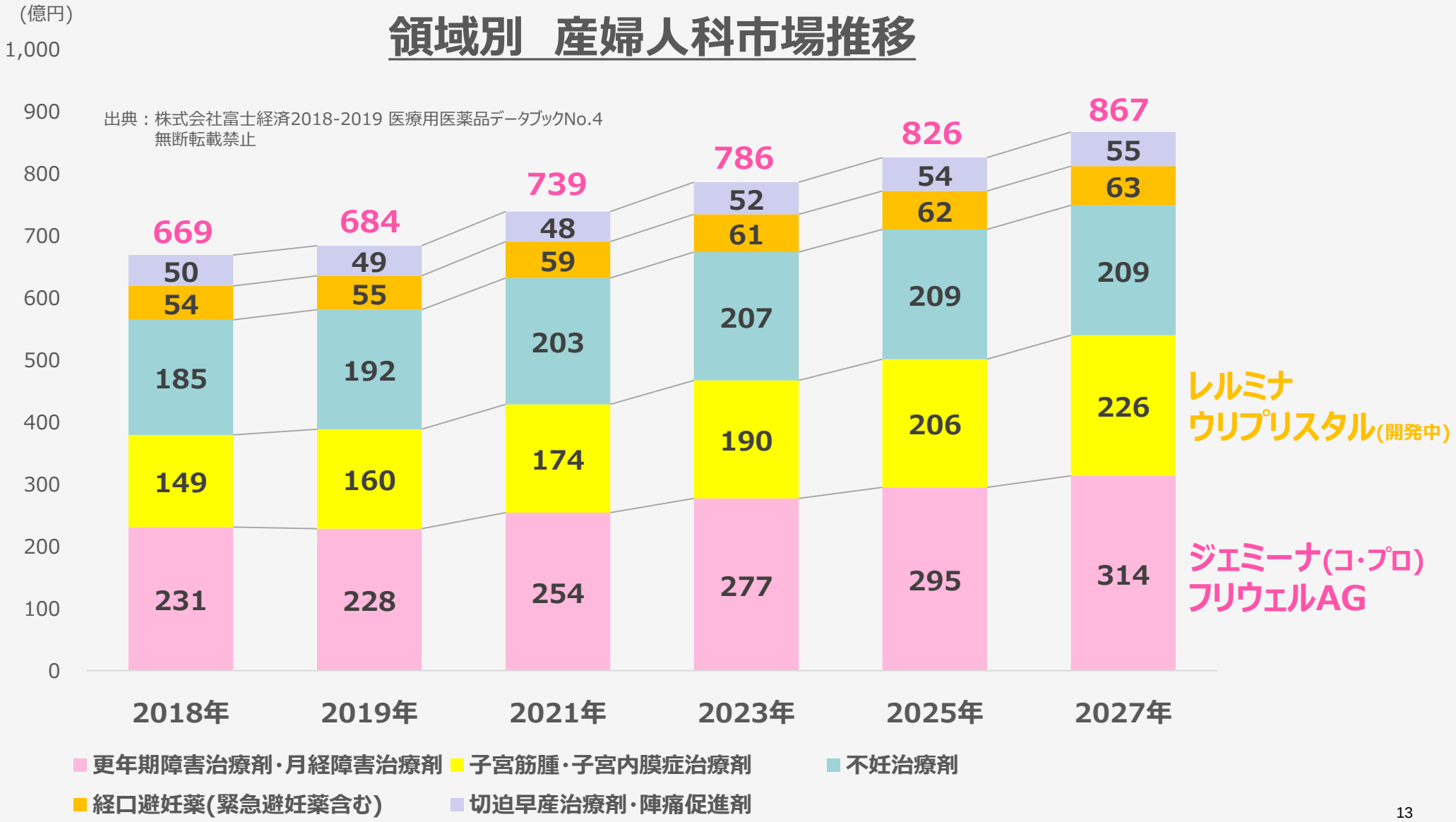
■ 開発パイプラインの進展 (ウリプリスタル 他)

■ 共同研究契約締結 (ラクオリア創薬)

P27.以降掲載

2019年度下期の取り組み

産婦人科の市場

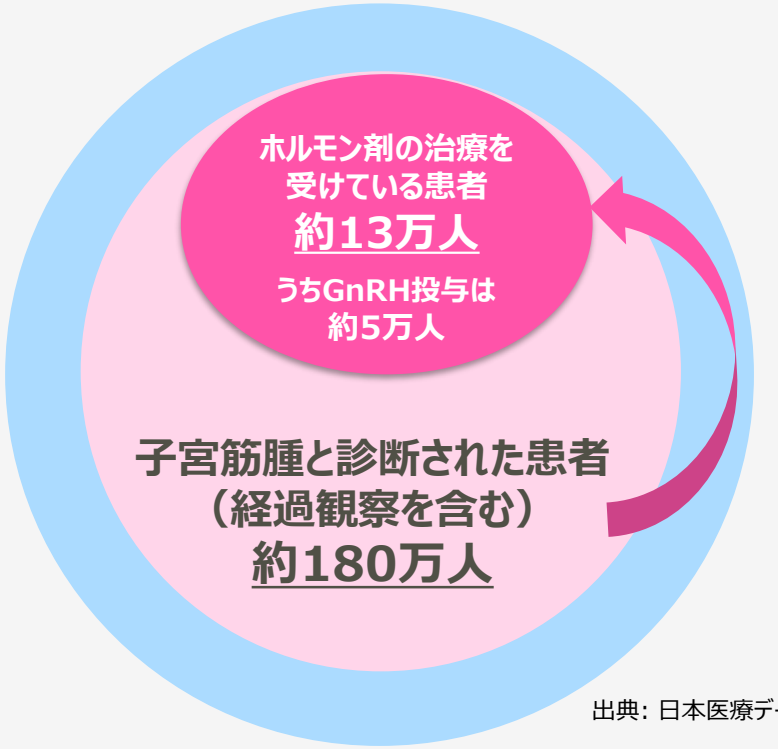

領域別　産婦人科市場推移
(億円)
1,000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
出典：株式会社富士経済2018-2019 医療用医薬品データブックNo.4
無断転載禁止
669
684
739
786
826
867
50
49
48
52
54
55
54
55
59
61
62
63
185
192
203
207
209
209
149
160
174
190
206
226
231
228
254
277
295
314
2018年
2019年
2021年
2023年
2025年
2027年
レルミナ
ウリプリスタル(開発中)
ジエミーナ(コ・プロ)
フリウェルAG
更年期障害治療剤・月経障害治療剤
子宮筋腫・子宮内膜症治療剤
不妊治療剤
経口避妊薬(緊急避妊薬含む)
切迫早産治療剤・陣痛促進剤

子宮筋腫・子宮内膜症治療剤領域

レルミナ®錠

RELUMINA

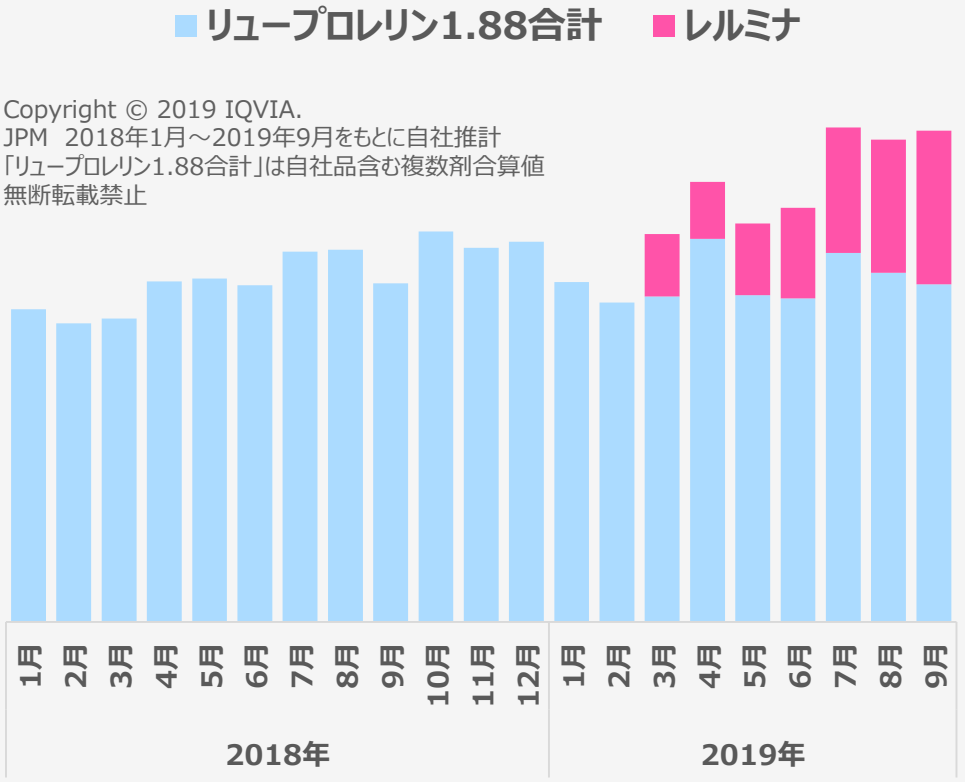
子宮筋腫市場



出典：日本医療データセンター

子宮筋腫　推定症例数

※数量からの推計





2019年3月発売
GnRHアンタゴニスト
『レルミナ®錠40mg』

リュープロレリン製剤に変化なし
他の治療法からの症例と推定

レルミナ®錠

RELUMINA

子宮筋腫治療剤の発売年

- 1988年 • ブセレリン酢酸塩(点鼻液)
- 1992年 • リュープロレリン酢酸塩(皮下注)
- 1995年 • 酢酸ナファレリン(点鼻液)
- 1999年 • ブセレリン酢酸塩(皮下注)
- 2019年 • レルミナ®錠40mg(経口)

20年ぶりの子宮筋腫治療剤

全国81大学病院のうち78大学病院が採用済み

※2019年11月時点

＜医療の第一線からの評価＞

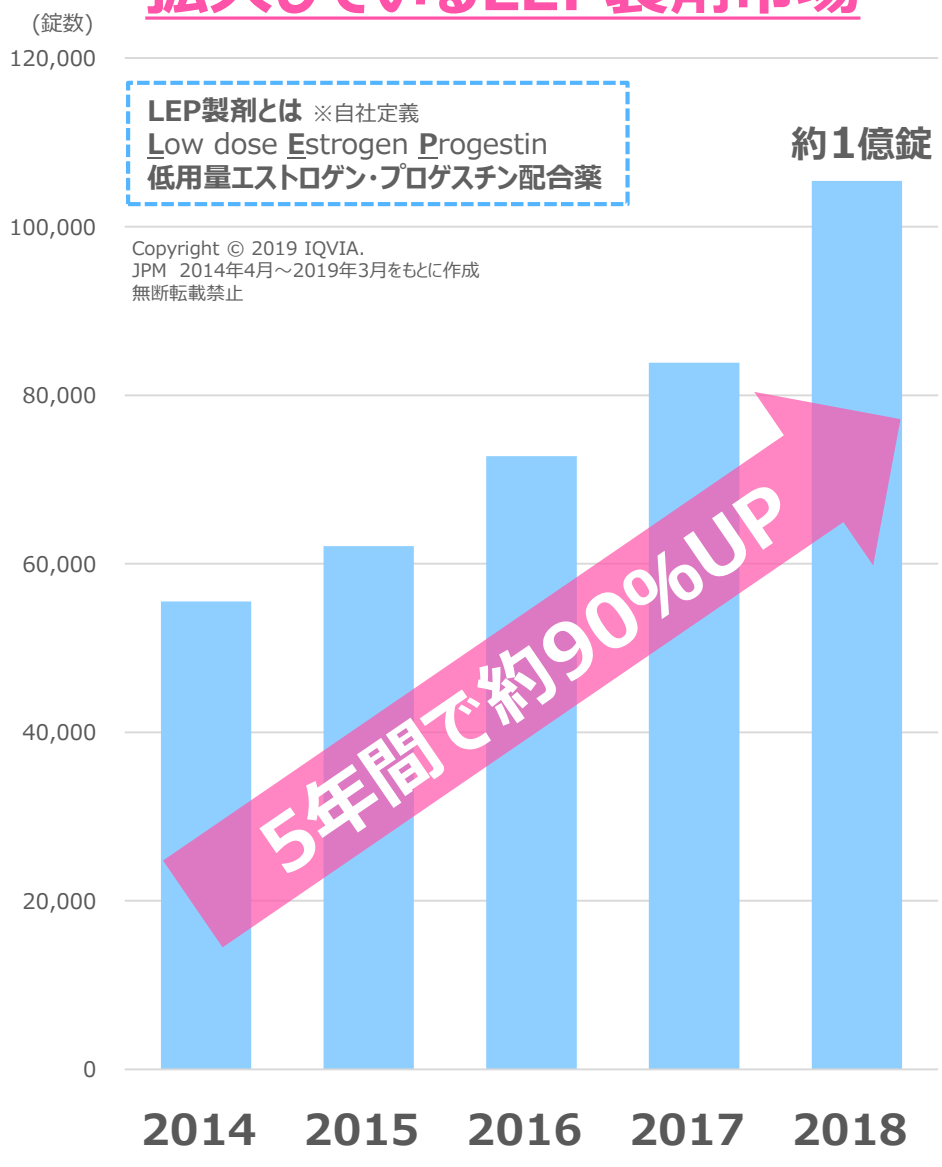
- 新しい薬理作用
- 既存薬がなかった
- 副作用の頻度
- 投与経路や剤形　等

～2020年3月～処方日数制限解除により更なる市場浸透を図る

更年期障害治療剤・月経障害治療剤領域

LEP製剤（ジェミーナ®配合錠 フリウェル®配合錠）

拡大しているLEP製剤市場



Copyright © 2019 IQVIA.
JPM 2014年4月～2019年3月をもとに作成
無断転載禁止



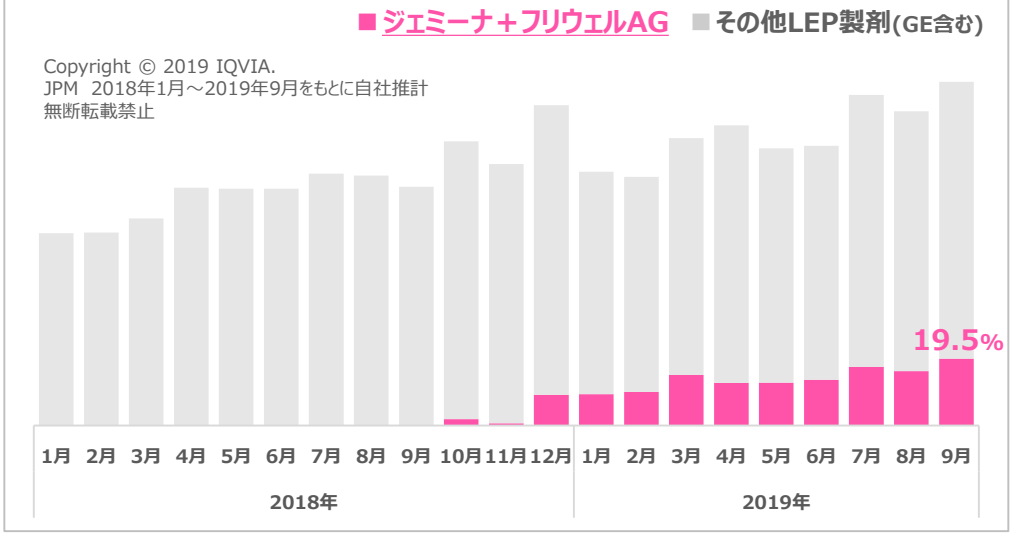
2018年10月 ノーベルファーマより発売
月経困難症治療剤
『ジェミーナ®配合錠』
コ・プロモーション

<2019年9月>
処方日数制限解除



2018年12月発売
月経困難症治療剤
『フリウェル®配合錠LD・ULD「あすか」』
オーソライズド・ジェネリック

LEP製剤市場における当社のプレゼンス ※錠数シェア



Copyright © 2019 IQVIA.
JPM 2018年1月～2019年9月をもとに自社推計
無断転載禁止

切迫早産治療剤・陣痛促進剤領域

東亜薬品工業株式会社より承継 (2020年2月1日)

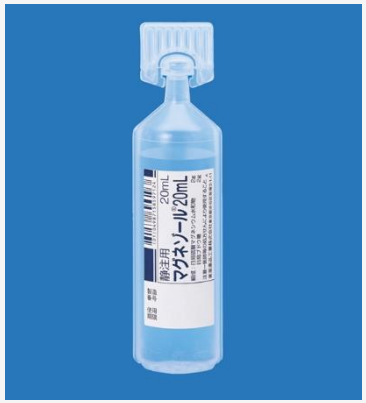


子宮収縮抑制剤

「マグセント®注100mL」
「マグセント®注シリンジ40mL」

一般名：硫酸マグネシウム水和物･ブドウ糖

＜効能効果＞
切迫早産における子宮収縮の抑制
重症妊娠高血圧症候群における子癇の発症抑制及び治療



子癇発症抑制･治療剤

「静注用マグネゾール®20mL」

一般名：硫酸マグネシウム水和物･ブドウ糖

＜効能効果＞
重症妊娠高血圧症候群における子癇の発症抑制及び治療

2020年
2月より承継

産科領域のラインナップを強化

産婦人科ラインナップ拡充

＜2020年2月より承継＞

- 子宮収縮抑制剤「マグセント」
- 子癇発症抑制・治療剤「マグネゾール」

開発中

- ウリプリスタル（子宮筋腫）
- レルミナ（子宮内膜症）



2019年3月発売
GnRHアンタゴニスト
『レルミナ®錠40mg』



2018年12月発売
月経困難症治療剤　オーソライズド・ジェネリック
『フリウェル®配合錠LD・ULD「あすか」』



2018年10月　ノーベルファーマ株式会社より発売
月経困難症治療剤
『ジェミーナ®配合錠』　※コ・プロモーション

プレゼンス強化

産婦人科製品　ライフステージ別

幼少期　思春期　生殖年齢期　更年期　老年期

経口避妊
- アンジュ
- ノルレボ

月経異常
- プラノバール

更年期障害
- ホーリン

月経困難症/ 子宮内膜症 /子宮筋腫
- ジエミーナ(コ·プロ)
- レルミナ
- リューブロレリン
- フリウェル
- ウリプリスタル
- ジエノゲスト

不妊症
- AKP-501
- ゴナトロピン
- HMG注テイゾー
- ルテウム
- ゴナピュール
- セキソビット

流·早産　/　出産
- マグセント
- マグネゾール
- リトドリン
- アトニン-O

STD
- ラピッドエスピー(コ·プロ)

産婦人科領域トップメーカーへ

新製品
ラインナップに追加

リフキシマ

肝性脳症のKey Drugへ

1 既存抗菌薬からの切り替え

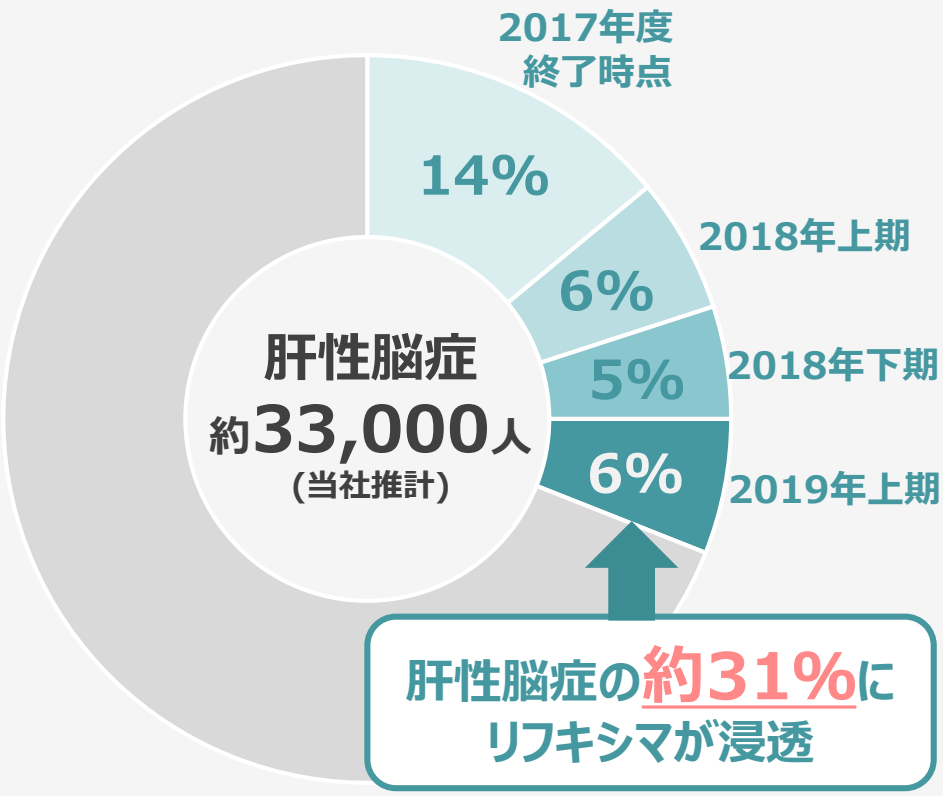
- 全例調査対象
- 流通管理品目

2 既存治療薬との併用

- 処方日数制限解除
- 全例登録解除

3 中心的薬剤の位置づけ

4 さらなる市場浸透を図る

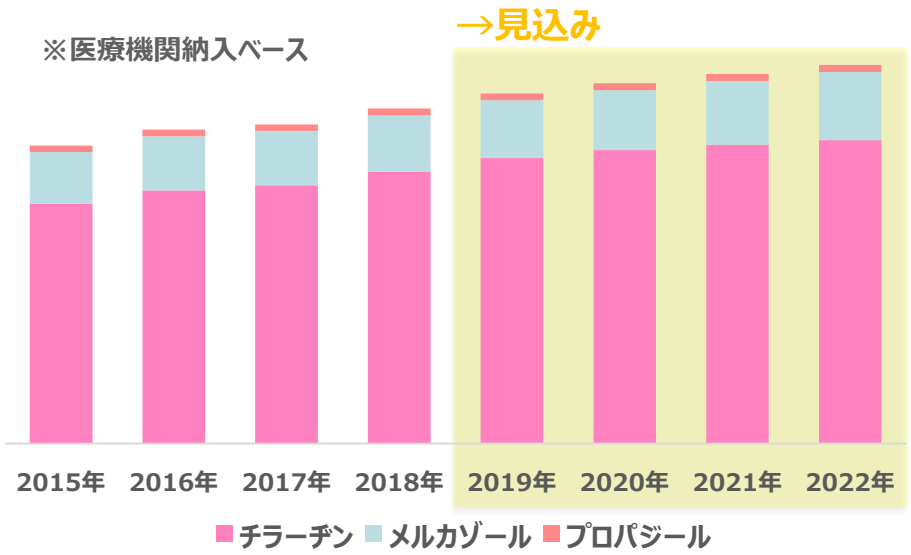


肝性脳症治療薬の『1st line』を目指す

甲状腺領域の取り組み

～2022年チラーヂン誕生100年にむけて～

甲状腺製剤の販売トレンド



疾患啓発



＜新規開設＞

医療関係者向け会員サイト

服薬指導に必要な資材の
ダウンロードや請求ができるサイト。
日常の診療や疾患の説明・教育等に
活用していただく事を目的とする。

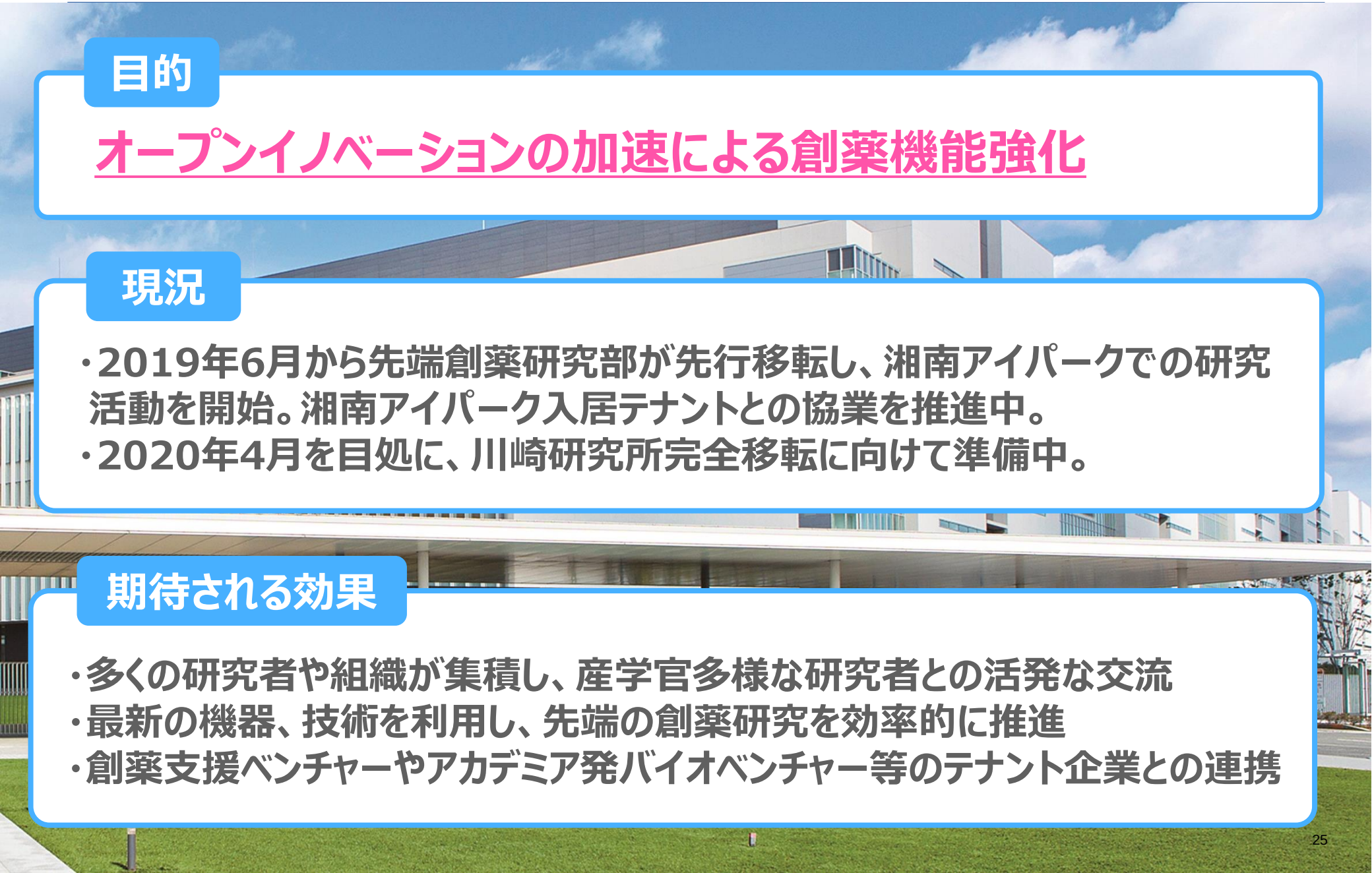
**※甲状腺領域、肝性脳症領域、
産婦人科領域に対応**

申請済み

- **AKP-015（レボチロキシンナトリウム注射剤）**
- **メルカゾール 半量製剤 (規格追加)**

医療ニーズに応える製剤

湘南アイパークへの移転



目的

オープンイノベーションの加速による創薬機能強化

現況

・2019年6月から先端創薬研究部が先行移転し、湘南アイパークでの研究活動を開始。湘南アイパーク入居テナントとの協業を推進中。
・2020年4月を目処に、川崎研究所完全移転に向けて準備中。

期待される効果

・多くの研究者や組織が集積し、産学官多様な研究者との活発な交流
・最新の機器、技術を利用し、先端の創薬研究を効率的に推進
・創薬支援ベンチャーやアカデミア発バイオベンチャー等のテナント企業との連携

海外事業

NeoASKA Pharma Private Limited
2020年4月稼働に向けて順調に進行

写真：Jawaharlal Nehru Pharma Cityホームページより







開発パイプライン

研究開発の状況 （2019年11月時点）

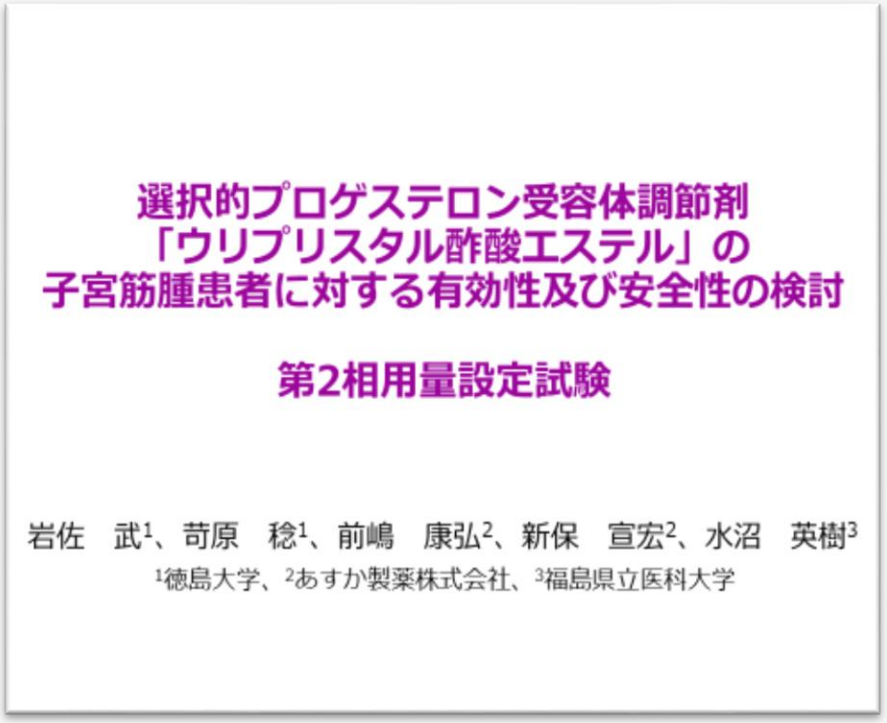
前回からの変更点

開発番号(一般名)／領域･効能	Ph Ⅰ	Ph Ⅱ	Ph Ⅲ	申請	承認
AKP-015（レボチロキシンナトリウム） 粘液水腫性昏睡/甲状腺機能低下症		(Ph Ⅱ、Ph Ⅲ不要)		申請済み	
CDB-2914（ウリプリスタル） 子宮筋腫				申請準備中	
TAK-385（レルゴリクス）レルミナ 子宮内膜症			Ph Ⅲ実施中		
AKP-501（フォリトロピンガンマ） 不妊症		Ph Ⅰ終了			
L-105（リファキシミン）リフキシマ 肝性脳症（小児）			Ph Ⅱ/Ⅲ開始		
L-105（リファキシミン）リフキシマ クローン病		Ph Ⅰ終了			
AKP-009 前立腺肥大症		Ph Ⅱ準備中			

ウリプリスタル

フェーズⅡ

第64回日本生殖医学会学術講演会にて、
CDB-2914（ウリプリスタル）の第2相試験結果を発表
※2019年11月8日



選択的プロゲステロン受容体調節剤
「ウリプリスタル酢酸エステル」の
子宮筋腫患者に対する有効性及び安全性の検討

第2相用量設定試験

岩佐　武[1]、苛原　稔[1]、前嶋　康弘[2]、新保　宣宏[2]、水沼　英樹[3]

[1]徳島大学、[2]あすか製薬株式会社、[3]福島県立医科大学

フェーズⅢ

現在フェーズⅢa終了

第3相比較試験結果要旨
※2019年11月26日リリース

子宮筋腫患者を対象としたリュープロレリン酢酸塩との比較において、無月経率について、リュープロレリンに対する非劣勢が示された。
無月経に達する期間でウリプリスタルの方が短く、早期の症状改善が認められた。
また、本試験で安全性に関する大きな懸念は確認されていない。

2019年12月中の申請を予定

共同研究開発

ラクオリア創薬（7/1 プレスリリース）



■ 特定のイオンチャネル※を標的とした創薬研究に関する共同研究

■ 疾患領域や適応症については非開示。

※イオンチャネルとは、細胞の内外へイオンを透過させる膜タンパク質の総称。
知覚神経や運動神経における情報の伝達や、様々な組織での神経伝達物質の放出を調節する重要な役割を担っている。

その他、ベンチャーとの共同研究開発を推進していく

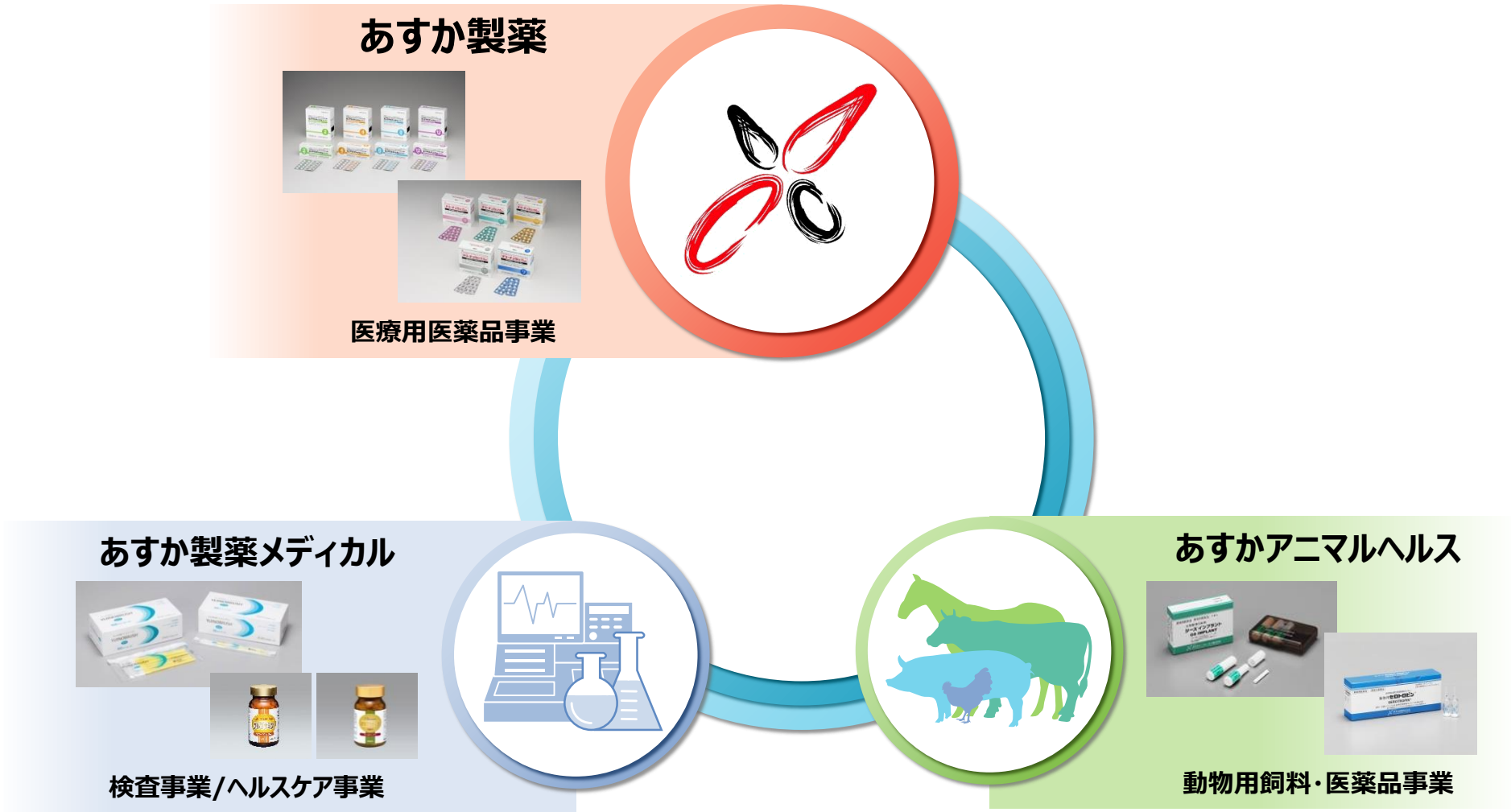
ASKA PLAN 2020

中期経営計画「ASKA PLAN 2020」

連　結	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 計画	2020年度 計画	次期中計 達成目標
売上高	485億	489億	467億	530億	700億	700億
営業利益率	3.7%	5.8%	3.8%	3.8%	10.0%	10.0%
ROE	7.8%	5.8%	4.1%	2.3%	8.0%	8.0%

- 「ASKA PLAN 2020」で掲げた計画の、期間内の達成は困難。
  薬価制度抜本改革、GE市場の変化、その他
- 700億円達成の材料は揃いつつある。
  発売済：レルミナ（子宮筋腫）、フリウェル、リフキシマ
  開発中：ウリプリスタル、レルミナ（子宮内膜症）
- 売上高：700億円　営業利益率:10%　ROE:8%は次期中計期間中の達成を目指す。
  現在、次期中計を策定中。2020年秋頃を目途に発表予定。

あすか製薬グループ


あすか製薬
医療用医薬品事業
あすか製薬メディカル
検査事業/ヘルスケア事業
あすかアニマルヘルス
動物用飼料・医薬品事業

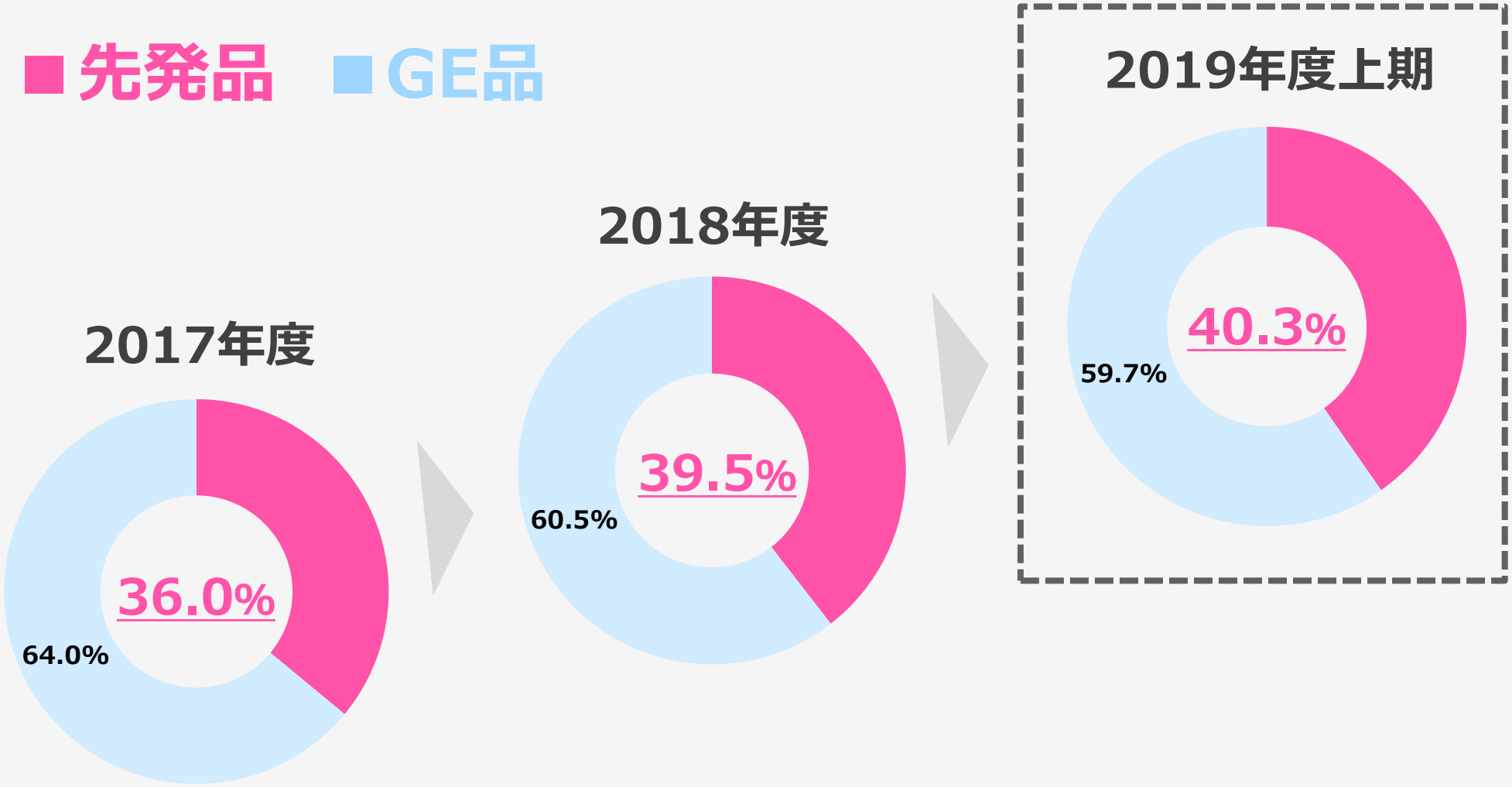
先端の創薬を通じて、
人々の健康と明日の医療に貢献する

あすか製薬株式会社

ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

ご参考：医療用医薬品の売上構成比

■先発品　■GE品

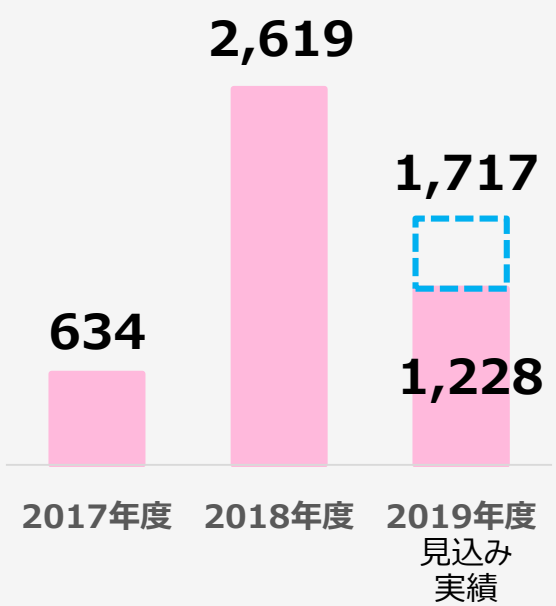


先発品の構成比を上げていく

ご参考：設備投資費・減価償却費・研究開発費

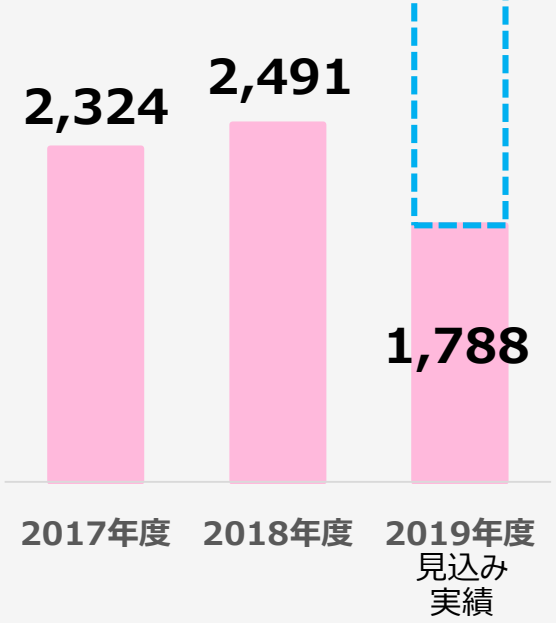
設備投資費

（百万円）



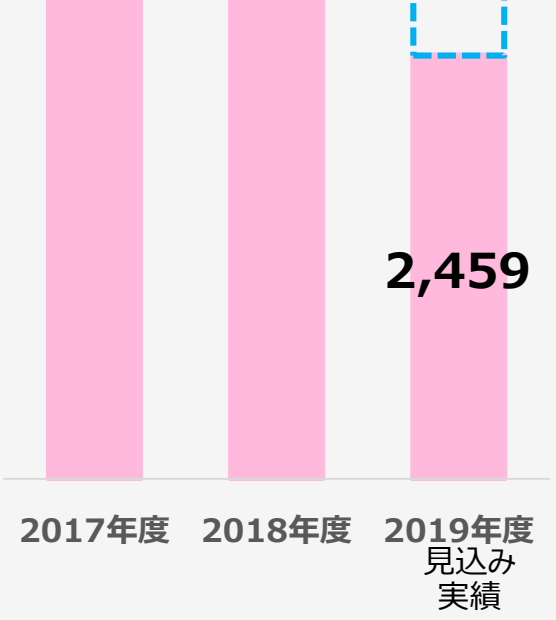
減価償却費

（百万円）



研究開発費

（百万円）



ご参考：「収益認識に関する会計基準」

1. 概要

- 2018年3月30日に企業会計基準委員会より「収益認識に関する会計基準」（以下、「本基準」）が公表され、2021年度より強制適用されることとなりました（2018年度以降より早期適用が可能）。
- 従来、日本の会計基準では、収益認識に関する包括的な会計基準がなく、「商品の引き渡し」と「現金同等物の受領」を要件として売上計上するとしていました。しかし、国際会計基準（IFRS）との整合性をとるため本基準が公表され、適用されることとなりました。

  （主な内容）
  - 「所有権」「占有」だけでなく「重大なリスク」が顧客に移転した場合に収益を認識する。
  - 代理人取引（仲介等）は、売上高と仕入高を相殺し手数料のみが売上高となる。
  - リベート等は、販管費に計上するのではなく売上から控除となる。
- 当社においては、売上計上のタイミングを変更することで他社と同基準で売上高の比較が可能となること、また、2018年度よりERPを導入しており、本基準を適用する環境が整っていることから、早期適用に至りました。

2. 本基準の当社への影響

- 従来は武田薬品へ商品が着荷したタイミングで売上を計上しておりました。
- 本基準においては、武田薬品が特約店に商品を引き渡した時点で「重大なリスク」が移転したとみなされるため、本基準適用後の当社の売上計上のタイミングは、武田薬品が特約店に商品を引き渡した時となります。

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

お問い合わせ先

経営企画部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：kouhou@aska-pharma.co.jp

